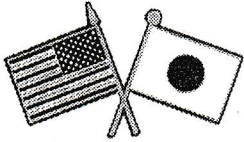


28 NOV 2003



第21号

日米エアフォース友好協会

だより

Japan America AF Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒105-0004 港区新橋 5-25-1-3

編集：J A A G A 事務局

印刷：財団法人 防衛弘済会

ホームページ：http://www.bouei.com/groups/jaaga/

第374空輸航空団司令兼横田基地司令の交代式 新司令にマーク・シスラー大佐着任

2003年

常務理事 中 司 崇

6



Col. Shissler

7月8日、横田基地司令マーク・スターンズ准将の後任に、米アーカンソー州のリトルロック基地からマーク・シスラー大佐が着任した。

同日午前、着任行事の一環として、指揮官交代式が5空軍司令官ワスコー中将統裁の下に、基地格納庫にて第374空輸航空団の兵員を前に、多くの関係招待者、家族の見守る中、粛々と行われた。J A A G Aからは、伊藤副会長ほか2人の理事が出席した。



Brig.Gen.Sterns and Gen.Muraki

交代式は、軍楽隊の演奏下に3司令官が登壇、日米両国旗、軍旗の入場、両国国歌の吹奏に続き、ワスコー中将が離任のスターンズ准将を労い勲章を授与、新着任のシスラー大佐を紹介、指揮官旗を手渡し指揮権の継承をおこなった。

続いて新司令のシスラー大佐は、隷下の各群司令から先任軍曹を通じ人員報告を受けるとともに、新司令機にC-130H輸送機を指定した。

緊張した面持ちで挨拶に望んだ新司令は、太平洋地域において最も長い歴史を持つ第374空輸航空団の指揮を執る抱負と初めての日本勤務の期待を述べるとともに、武士道精神に富む日本（自衛隊）の方々とともに軍務につけることを誇りにしている旨のべた。

式典後は、将校クラブにおいて歓迎レセプションが行われ、基地主要幹部と多くの招待者との和やかな交歓の場となった。

なおスターンズ前基地司令は、米アリゾナ州第12空軍副司令官兼南方軍副司令官として御栄転、前日の7月7日には将校クラブにおいて送別会が催され、J A A G Aからも村木会長等が参加し、前司令官へ感謝の意を表した。

シスラー大佐

略歴：1981年航法士課程を修了後、戦術空輸飛行隊にて教官
航法士、検定航法士等の勤務の後、各級レベルの司令部
参謀勤務。1996年に第62空輸飛行隊長、2001年に
第463空輸群司令。

教養：1977年St.トーマス大学卒、ウェブスター大学修士課程、
海軍大学指揮幕僚課程、ハーバード大国家安全保障フェ
ローシップ

(第374空輸航空団：太平洋地域における国防総省唯一の空輸
航空団の運用、訓練、指揮、統制の責任を持つ。また横田基地
は西太平洋の空輸の軸として、米国の前方展開と危機対応を保
証するため、使命即応力および基地運用支援を提供している)



Change of Command

帝京大学でJAAGA理事講演

—— 大学ゼミではじめて、活発な質疑応答 ——

常務理事 越智通隆

10月28日(火)13時から16時の3時間、質疑
応答も含めJAAGAに講演の機会を与えられ、越智、
蜂谷両理事が参加した。これまでは米側が一方向的に
横田基地への大学生の訪問を受け入れていたので、

そろそろ次は米側が大学の方に講演にでかけたいと
の強い要望があり、これを受けてTV等で大活躍中
の我々自衛官の大先輩でもある志方教授にお願いし
たところご快諾頂き、多忙な日程を工面して、28



Prof. Shikata (Ret. Lt. Gen.) and Students of Teikyo Univ.



Lecture Scene

日に実現の運びとなったものである。ところが米側が、この日はどうしても代理を含めて参加できなくなった旨伝えてきたので、それなら急遽のことでもあり、担当理事である越智・蜂谷でよければと申し出たところ、志方教授のご快諾のもとついに実現した。私としては、昨年9月に実施された17日間にわたるつばさ会主催の米国研修や、本年9月の太平洋空軍招待による3日間のグアム島研修ならびに10月に行なわれた富澤元陸幕長を団長とする陸海空自衛隊退官OBによる第26次の10日間にわたる中国訪問等から得られた体験をもとに、現役時代の知見を加味して話す絶好の機会となった。

まず私からは、防衛庁を取り巻く環境がここ数年まさに激変の感がすること、私が統幕4室長をしていた平成8年4月、8年にも及んだ日米物品役務相互提供協定(ACSA)がついに締結の運びとなったこと、しかし締結時は種々の制約もあり、適用事態もごく限定されたものであったが、その後数年にして周辺事態法が成立し、ACSAの精神はその中

にそのまま盛り込まれた事は深い感慨を覚えた事等を披露した。次いで蜂谷理事も、イスラエル武官としての経験をもとに現在学生の関心高い中東情勢について深い分析を含む講演を実施した。特に彼は、空幕広報室長時代に培った見事な機転を働かせて、学生の熱心な質問に対して名解答ぶりで満場を沸かせた。

この日は志方教授ゼミの学生40名余が集まり終始熱心に我々の話を聴講してくれた。学生からの特に印象に残る質問は、自衛隊の練度は世界標準からしてどの程度のものかとか我々が現役時代にこれを解決してくれたら大変助かると思った事はなにかとか、ということでありそれぞれ大変考えさせられる質問であった。その質疑応答を通じて更に講演内容が充実したものになったと、学生達に対しても心から感謝した次第であった。

志方教授によれば、ここ数年の変化として大学の学生側からも安全保障に関する講義の要望が多くなったこと、また、教授自身もいろいろな所からの依頼

に応じて出かける事が多くなったとのことであった。さらに、ここ数年間の我が国の激変振りは、永年防衛問題に携わってきた者として誠に心強いものがあるとのことであった。講演終了後、我々2名に対し夕食会までが用意されており、さらに話が盛りあがっ

た。

後刻志方教授から、「学生の反応は絶大なものでした。学生の知りたい事は高邁な安全保障の理論ではなく、防衛の最前線で活躍した自衛官から実学としての防衛を学ぶ事である。」との激励を受けた。

ラーセン准将「虎ノ門道場」に登場！

—— 在日米軍副司令官の講演 ——

常務理事 中 司 崇



Brig. Gen. Larsen

在日米軍副司令官ティモシーR.ラーセン准将は、9月9日(火)東京赤坂の東京財団(日下公人会長)の「虎ノ門道場(DOJO)(日本財団ビル2階大会議室)」において350名超の一般聴衆を前に「日米安全保障関係」と題する講演を行った。この講演は、日米関係の現状や展望に関する一般の人々のより良い理解のため、JAAGA事務局が企画推進する講演会や懇談会等の一環として実現したものである。

ラーセン准将は、在沖縄米海兵隊基地司令官から着任早々にも拘わらず、沖縄を主に4回の在日勤務で培われた物腰の柔らかさと、時折海兵隊員としての精悍な表情を織り交ぜながら、この地域における米軍のプレゼンスの意義、イラク問題、北朝鮮問題等について質疑を含め約1時間半の講演を精力的に実施した。以下その要旨。

米国のプレゼンスの規模については、現在は5.8万の軍人、0.5万の米軍属、2.5万の軍関係労働者、5.2万の家族であり、総計14万人に達している。このプレゼンスは、過去半世紀に亘って対ソ連を狙

いといた60年代から、最近の対北朝鮮の動きに至るまで、紛れもなくこの地域の安定と世界の安定に貢献して来ており、テロ問題等の不確実な今後の課題にも取り組み続けるであろう。

イラク問題については、連合軍に対する日本のいち早い支持は、日本が頼り甲斐のあるところを証明してくれたものであり、米国は大変感謝している。圧政者からイラク国民を解放するという、イラク戦の正しさを認めて支持してくれたものと信じている。更に、日本が財政支援を約束してくれたことも併せて歓迎されている。

イラクではこれから大変な作業が残っている。日本に米国が何かを期待するというのではなく、日本は日本の国益に基づき判断して行動してもらいたい。今後、国連の専門機関やNGOの支援も期待している。戦後復興は、軍人と文民の双方の協力が必要である。

北朝鮮問題については、6か国協議が終わったばかりであり、外交努力の最中であるので軍事的オプションについては言及できない。軍は、外交努力を100パーセント支持している。北の核は、極めて大きな脅威である。米国は、北が不可逆的な方法で核を放棄すれば、今までと異なる支援の用意があり、

新たな関係確立の用意がある。

質疑においては、日本は核武装すべきか？ 米は憲法9条の改正を期待するか？ 在韓国の第2師団が後方に引く場合、日本に来るオプションはあるか？

北朝鮮との不可侵条約締結の影響は？ 沖縄集中米軍の本土分散の可能性は？ 日米の共同運用の将来は？等々活発な質問が行われた。

最後に、今後の日米安全保障関係についての私見として、この2年で世界は変わった。劇的変化の時代、予測不能の時代、新しくかつ、予測できない脅威の時代である。従って、今後は、あらゆる分野に

対応できる、柔軟性ある日米同盟関係に進化しなければならないと思うと述べ講演を締めくくった。

ラーセン准将略歴

コロラド州デンバー出身。ユタ州ブリガハム ヤング大学卒業後、1973年歩兵指揮官課程をへて海兵隊少尉に任官。第一海兵師団副司令官、在クウェート統合機動部隊司令官等を歴任。今般、在沖縄海兵隊基地司令官から在日米軍副司令官に着任。

海軍指揮幕僚大学、防衛研究所、サルブ レジナ大学 国際関係論 修士号、海軍大学国防戦略研究 修士号

シビックリーダーーツアーに参加して ——米軍に対する地域有識者の理解深まる——

常務理事 越智通隆

地域有識者等に対して、太平洋空軍部隊の所在する基地を研修する機会を作り、米軍に対する理解を更に深めて貰う事を目的として計画された、米太平洋空軍主催の Civic Leaders' Tour が、今般は9月8日に横田をC-9（通称ナイチンゲール）で出発し、グアム島のアンダーセン空軍基地訪問のあと、三沢経由で横田に帰投するという2泊3日の行程で実施された。イラク戦争終了後、マスコミでは米軍の再配置に関する記事がかなり頻繁に取り上げられているが、嘉手納基地の10倍もあるという世界最大級のアンダーセン基地を実地に見る機会を得た意義は大きいものがある。研修の間横田基地司令シスラー大佐が終始同行し、各基地とも基地司令自らが直接我々に対応する等、本計画に対する米側の周到的な心配りが随所にうかがえた。

ベトナム戦争たけなわの頃、アンダーセン基地には155機ものB-52が同時に配備されていたが、当時の給油及び弾薬補給能力は現在もその能力を保持していた。給油施設はハイドラント方式がとられ

ており、我が国のように燃料車による方式の場合、C-5の給油では4～5時間かかるところが、ハイドラント方式では1時間足らずで可能との説明があった。即応性は今も健在である。北朝鮮のミサイル基地から3500キロ離れているグアム島の戦略上の持つ意味は大きいものがある。近い将来のこの基地に対する整備計画の概要説明があったが、米側のこの基地に対する並々ならぬ決意を充分理解することができた。

ホテルでの夕食会では、地元の商工会議所の会頭はじめ、グアム島のマッド基地司令並びにその他の関係者が大勢参加してくれ、我々一行を大歓迎してくれた。翌日三沢にむけての帰路の途中、富士山上空をわざわざ飛行して、我々の期待にこたえてくれる深い配慮に、一同おおいに感激した。三沢基地ではアトキンズ基地司令自ら出迎えてくれ、F-16をつぶさに見る機会を与えてくれた。各種兵器の紹介とともに、どのような質問にも直ちに応じられるように現役のパイロットが待機する等、万全の態勢



Civic Leader Tour

を敷いてくれていたことに、民間参加者は特に感銘を受けていたようである。航空自衛隊が来年度予算で要求中のJDAMも紹介され、現物を目の前に運用方法等の詳しい説明を受けよく理解する事が出来た。

冷戦構造崩壊後米軍再配置の議論が聞こえる中、当基地のその可能性について聞いたところ、F-16

の持つ航続距離等の高い性能から広い守備範囲が可能であり、その必要性はないとのコメントを得た。オフィサーズクラブでの夕食会には地元関係者や日米両基地司令も加わり、一同楽しいひと時となった。米空軍の心からの接遇に感謝しつつ、米軍に対する理解を大いに深めて、参加者一同は、満足のうちに互いに別れを惜しんでいた。

講演等の要望を募ります

「安全保障に関する日米関係」等

防衛協力のための指針や物品役務相互提供などに関する論議がしばしば行われる昨今、事務局では日米関係の現状や展望に関するより良い理解の

ため、主として基地周辺の皆様を対象とする講演、懇談会等を企画できるよう準備しています。ご要望あれば御一報下さい。 J A A G A事務局

「つばさ会／JAAGA訪米団」に参加して

—— 暖かい友情と支援に感謝！ ——

常務理事 清水正睦

例年の「つばさ会訪米団」、今年度はJAAGAも併記して杉山蕃つばさ会副会長を団長に伊藤淳JAAGA副会長、鈴木敏且、岩崎克彦常務理事、酒井一秀の各氏と私の計6名で、9月25日から10月11日までの17日間、国防省及び空軍各基地（8箇所）を訪問、高官等の交流を通じ日米相互の親善を図ると共に米軍等の現況及び趨勢を把握してきました。

昨年の訪問の際、名誉会員就任を了解して戴いた歴代5空軍司令官のうち、マイヤーズ統参議長、エバハート北方軍司令官、ヘスター特殊作戦軍司令官にはそれぞれの部隊を訪問し、また退官されたホール元中將にはワシントン近郊アンナ湖ほとりの別荘に招待され、親しい交歓と事前に用意したJAAGAの名詞を贈呈して喜ばれました。また最初の訪問先であったラングレー空軍基地は直前に襲ったハリケーン・イザベラの大きな被害を受けたにも拘わらずACC副司令で元三沢基地司令のライト中將の力添えて無事研修することが出来ました。またネリス空軍基地 Air Warfare Center の司令官ウッド少將も元三沢基地司令で格別の配慮と尽力を図って戴き、イラク戦争でも大活躍したUAVプレデターやコックピットこそ入れなかったもののF-22も間近で見ることが出来ました。その他日本で勤務したこと

あるマギー女史や各部隊長等が在日時代を懐かしく好感を持って話され、JAAGAの行っている趣旨は日米関係に大きな意味のあることが認識されました。今回お会いした高官からはテロに対する戦いにおける空自のC-130による空輸支援への感謝、またF-15が初参加したアラスカ・コープサンダーにおける空自部隊の活躍ぶりに高い評価がありました。

今回の研修成果としてはイラク戦争の教訓として空対地、空対水上の統合的接続とネットワーク化、目標周辺の被害局限から武器開発の一層の精密誘導化と小型化への傾向、それに伴い特殊作戦空軍部隊の重要性、無人機の活躍ぶりと将来の発展性、昨年10月に発足した米北方軍の概況と9.11以降の米本土における防空態勢の強化の現状、航空宇宙戦力とりわけ衛星を主体とする宇宙からの支援の役割等が上げられます。いずれも新しい実戦を経験した空軍だからこそ得られた内容でした。また駐在武官の渡辺将補、山下2佐、ティンドル空軍基地交換幹部武田1尉、士官学校交換教官高嶋3佐に会い、激励と共に現地で支援を受け活躍ぶりを拝見できました。

今回の研修に参加して大変貴重な経験することができましたが、これも現役、退官者を問わず永年に亘る日米交流の実績の結果であり訪問先随所で米軍人及び関係者との強い絆を感じてきました。この場をお借りしまして本訪米実現のためにご尽力賜った日米の関係者の方々に厚く御礼申し上げます。



Gen.Myers' Office



F-22 (Raptor)

第8回ウェルカム・マリーン・プログラム (WMP) に参加して

常務理事 越智通隆

8年前に沖縄で生じた米国海兵隊員による不幸な出来事に端を発し、日本における基地問題として大きくとらえられたとき、当時産経新聞の記者であった田村玲子さんが、現地の直接取材で、多くの若い海兵隊員が2年ないし3年の沖縄勤務の間に一度も日本本土に行った事がないということを知り、せめて何人かを本土に招待しようではないかとの呼びかけで始まったウェルカム・マリーン・プログラムも、すでに回を重ねて第8回となった。今般、7月中旬に行なわれたプログラムに参加する機会を得たので、紙面を借りてその概要を紹介することとする。

第1回目は海兵隊員の代表だけであったが、第2回目からは沖縄在住の米陸、海、空軍隊員全ての対象となった。プログラムも年々充実し今日を迎え、本年は、柳井元駐米大使御夫妻はじめ多数の要人が聴講するなか、ヘイルストン太平洋海兵隊司令官の「イラク戦争と海兵隊」という講話から始まった。

講演後大使からは、これからの米国にとって一番大変な事は、イラクの治安を如何に維持していくかということではないかとの指摘があり、司令官もまさにそのとおりであるとの見解を示した。また米軍撤退の時期については、1年から1年半になるのではないかとのコメントをしたが、これは現地司令官の3年から4年という占領期間に比べると強気のみとうしであるとして、その日の夕刊にも掲載されていた。

引き続きベーカー大使はじめ石破長官、安部官房副長官(当時)、亀井議員等々多彩な顔ぶれが参加する懇親会が行なわれた。米側からは、ワスコー司令官、シェイ副司令官、ラーセン沖繩海兵隊基地司令(現副司令官)等、日本側からは、統幕事務局長、各幕副長等が参加したが、イラク戦争に参加した海兵隊を主体とする陸海空を含む32名の代表者を慰労する事が出来た事は、意義深いことであったと感じたのは決して私だけではないと考えるところである。



… 新入会員の紹介 …

1 新入会員

(1) 正会員

氏名 勤務先	〒	住所・電話番号（上段：自宅、下段：勤務先）	
井 関 学	336-0016	さいたま市南区大谷場1-13-12	048-887-4149
(株)ハウスメイトパートナーズ	170-6041	豊島区東池袋3-1-1	03-3590-0912
榎 利 美	285-0925	印旛郡酒々井上本佐倉1-10-15	043-496-1796
松 本 産 業 (株)	132-0021	江戸川区中央1-10-15	03-3652-6001
相 田 哲 彦	272-0827	市川市菅野2-11-16	047-321-0741
住 友 商 事 (株)	104-8610	中央区晴海1-8-11	03-5166-4716
平 木 善 道	143-0023	大田区山王3-37-6-D-210	03-3776-1248
三 菱 重 工 (株)	108-8215	港区港南2-16-5	03-6716-4691
村 田 實	270-1164	我孫子市つくし野4-6-1-301	04-7183-9341
山 本 親 男	033-0043	三沢市千代田町4-140-821	0176-53-9428
三沢市自治振興公社		H15.11新住所に移転予定	
北 村 喜 信	273-0043	船橋市行田町59-42-209	047-438-4675
日 本 電 気 (株)	162-0055	新宿区余丁町10-10(新宿余丁町ビル)	03-3358-9240
佐 原 利 幸	358-0003	入間市豊岡1-1-1、1520	042-966-4566
日 本 電 気 (株)	183-8501	府中市日新町1-10	042-333-1229
西 垣 義 治	567-0012	茨木市東大田3-1-8-418	072-624-1577
三 菱 電 機 (株)	661-8661	尼崎市塚口本町8-1-1	06-6496-9848

(2) 個人賛助会員

氏名	〒	住 所	電話番号
菅 原 政 雄	253-0105	神奈川県高座郡寒川町岡田4-21-21	0467-75-4022
本 田 博 己	247-0022	横浜市栄区庄戸3-27-3	045-893-1905
大 村 文 男	245-0066	戸塚区俣野町430-16	045-851-1750
武 末 憲 一	270-2214	松戸市松飛台80-41	047-385-3995

2 名簿修正等（15.7以降の変更）

(1) 正会員住所等変更

氏名	〒	住所・電話番号・メールアドレス等
中 島 紀 義	153-0063	江東区東雲1-9-15 東雲キャナルコート・2 街区 TEL/FAX:03-5560-1909
川 田 哲 雄	105-8322	東京都港区東新橋1-9-3 TEL:03-6251-5222、FAX:03-6251-6615
野 村 亘 康	754-1101	山口県吉敷郡秋穂町東1787番地 TEL:083-984-5230
御 厨 美 至		勤務先:mikuriya@kajimaro.co.jp、自宅:shiseki-mik@msa.biglobe.ne.jp
蜂 谷 治 幸	279-0023	千葉県浦安市高洲11-1G1903 自宅:haru-88h@rf.bias.ne.jp、勤務先:h.hachiya@snapon.co.jp
三 輪 泰 彦		自宅:hko@takadasangyo.co.jp、勤務先:ate@chive.ocn.ne.jp、
村 岡 亮 道		自宅:a-muraoka@pop02.odn.ne.jp
村 木 鴻 二		勤務先:k-muraki@dsg.hitachi.co.jp
三 澤 守		自宅FAX:03-3977-7642
佐 貫 由 明	466-0834	名古屋市昭和区広路町石坂28-1-M-802
石 田 香		自宅TEL/FAX:046-825-0027

(2) 正会員勤務先削除 小泉 進、菅 友彦、野村亘康

(3) 個人賛助会員住所等変更

宇都宮 滋 会社住所変更 〒104-0061 東京都中央区銀座3-11-15 第5中山ビル3F 03-3545-0680

(4) 法人賛助会員社名・代表者等変更

ユナイテッドテクノロジーズ インターナショナルオペレーションズ	ユナイテッドテクノロジーズインターナショナルオペレーションズインク
カ ヤ バ 工 業 (株)	代表者 江川勝久氏から古郡陽一氏に FAX03-3435-7433
帝 人 製 機 (株)	ティーエスコオペレーション(株) (TS Corporation)
旭 化 成 (株)	旭化成ケミカルズ(株) (ASAHI KASEI CHEMICALS)

(5) 新規役員

常務理事(渉外担当)：榎 利美

会 員 募 集

J A A G Aは、創立7周年を迎え、更なる前進を目指して個人会員の会勢拡大に努めております。会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。なお、個人会員につきましては、次のとおりです。推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当の係から連絡させていただきます。

【入会資格】 正 会 員 : 航空自衛隊のOB
個人賛助会員 : 航空自衛隊のOB以外の方で、正会員3名の推薦が必要です。

【連絡先】

「郵便」 〒105-0004 東京都港区新橋5-25-1-3
日米エアフォース友好協会 会員担当行
「電話」 03-3489-1120 尾崎利夫(東京航空計器(株))
03-3212-3111 村岡亮道(三菱重工(株))
03-5400-4721 宇都宮 靖(横浜ゴム(株))

ワンポイントQ&A

Q JAAGAとは?

A JAAGAは、航空自衛隊と米空軍との相互理解と友好親善の増進に資することを目的とし、現役の皆さんが仕事をやりやすい環境作りに寄与しようという航空自衛隊OB主体の組織です。

Q 協会の運営は?

A JAAGAは、ボランティアに徹し見返りを求めないこと、及び努めて現役の皆さんに負担を掛けないことを方針として運営しております。多くの皆様の期待に応えるべく、さまざまなアイデアを取り入れ、活動の幅を広げ、種々の事業を展開してまいります。

Q 私も参加できますか?

A JAAGAは、その活動をより活発にするため、個人会員の会勢拡充に努めております。航空自衛隊のOBの方は、どなたも正会員として入会できます。また航空自衛隊OB以外の方でも、個人賛助会員として入会の道があります。

☆ 原稿募集 ☆

皆様からのフリーな投稿や、JAAGAの活動に対するご意見やご要望を頂戴し

皆様と共に歩むJAAGA

として更なる発展を期していきたいと思っております
皆様の貴重なご意見や各種投稿をお待ちしています

投稿受付

木村 忠信 Tel 03-3464-3053 (GEエジソン生命)
Fax 03-5459-2236

